

献 辞

経済学部長 清 野 良 榮

経済学部教授であります、田辺勝也教授はこのたび、めでたく御退職の年を迎えられました。先生は、昭和41年4月に本学の前身でありました松山商科大学経済学部を選任講師として赴任され、以来、36年間にわたって研究と教育に携わられ、大きな足跡を残されました。

在職の期間、本学の行政職としまして、商科大学時代に2期にわたりまして図書館長の重職につかれ、本学図書館の充実を図られて参りました。

また、昭和58年の4月から経済学部長の任にあたられ、経済学部の発展に寄与されました。先生が学部長時代でありました頃の思い出といたしましては、教授会の度に感心させられたことがあります。それは、教授会に提出される資料が大変緻密でかつ事前に十分検討された上で出されたものがほとんどだったということであります。1回の教授会のために一体何時間費やされたのかと思いますと、私の仕事内容に比べ判断いたしますと雲泥の差があることだけは確実であろうかと思えます。

大学名が現在の松山大学になって後に、大学院経済学研究科長を2期にわたってその任につかれ研究科の一層の発展に貢献されました。

田辺教授の御専門は、巻末の研究業績一覧を参照して頂きますとすぐにおわかりのように、社会保障・社会政策論でございます。社会保障にかかわりましては数多くの研究業績がございます。同時に、わが国の社会保障の現状をみましますと、先進国とか経済大国とかと称される割には、現状はお寒いかぎりであります。それだけに、少子化・高齢化時代を迎えた今こそ、先生の主張される社会保障の充実が望まれると考えられます。

その意味でも、田辺教授御退職以後も経済学部のカリキュラムのなかに、社

会保障論やそれに関連する諸科目の設置が不可欠であろうと考える次第であります。

教育者としての田辺教授の評価につきましては、経済学部と同僚、諸兄のみならず、松山大学の大半の先生は、大変教育熱心な先生であるという認識を共有されておられることを確信いたします。お人柄といえば、誠実そのものと言って過言ではございません。

さて、いよいよお別れの日が近づいて参りました。御退職後の先生の進路等につきましては直接伺ってはおりません。いずれにいたしましても、人生80年時代でございます。お見かけするかぎり、健康上の問題は一切ないようにも思われます。

最後に、今後ともわれわれ若輩者を、社会の目から叱咤激励して頂けますことをお願い申し上げ、かつ先生の今後の健康と御活躍を祈念いたしまして、献辞とさせていただきます。先生、お元気でお過ごしください。